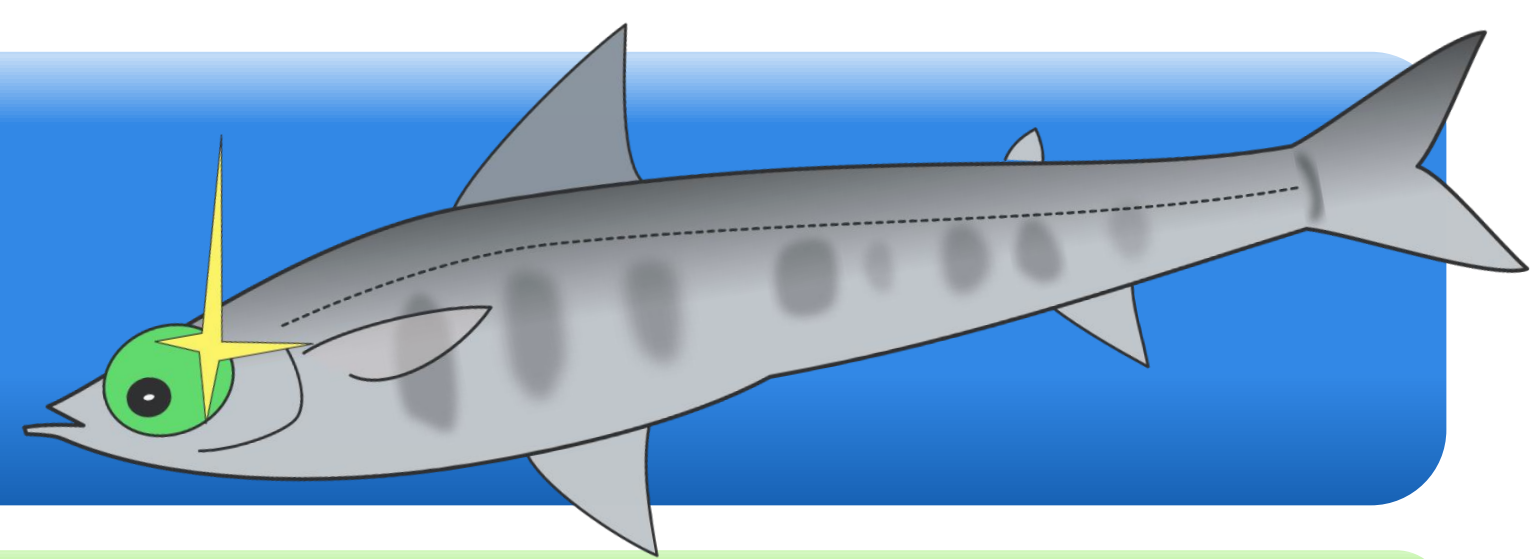


震災後の底魚類の資源動向調査



背景

東日本大震災に伴う東京電力福島第一原発事故の影響により、沿岸漁業は2012年6月から試験操業を実施していましたが、2021年3月に試験操業を終了し、水揚量の増加に取り組んでいます。

資源を維持しながら水揚量を増加させていくため、福島県沿岸の資源状況を把握することが重要です。

そこで、調査船「いわき丸」のトロール調査により採捕された底魚類について、震災前後の重量密度を比較・整理しました。

方法

2024年と震災前5年平均(2006～2010年)の重量密度を比較しました。

このうち、震災前後で増減が大きい魚介類については2006～2024年までの重量密度の変化をまとめました。

結果

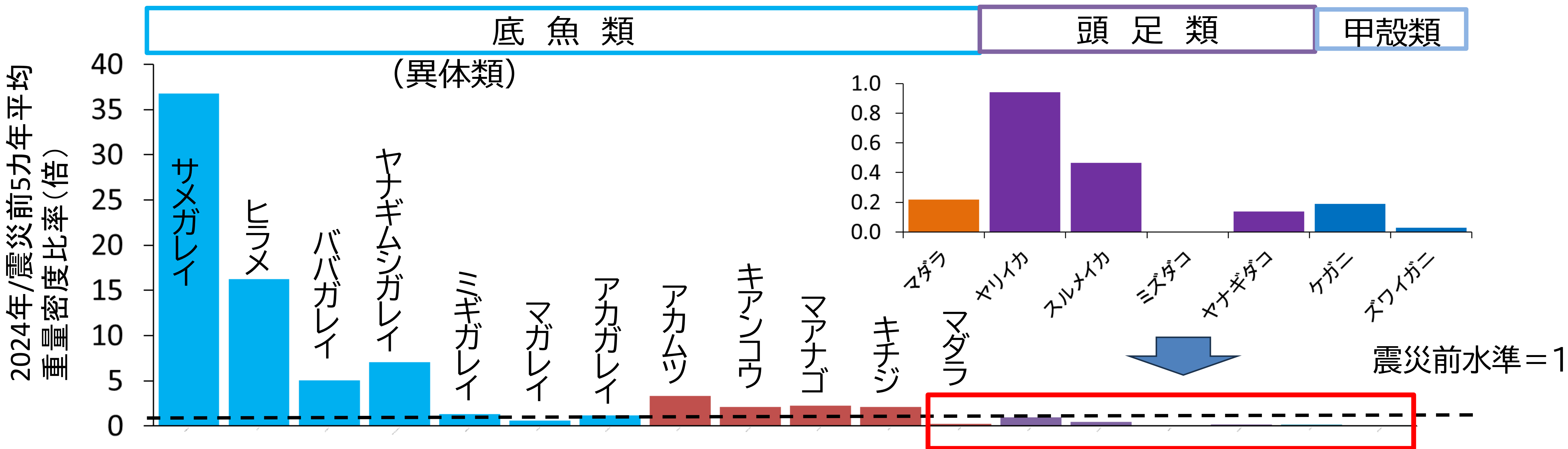


図1 2024年における震災前5年平均と比較した重量密度比率 (図中点線が震災前5年平均)

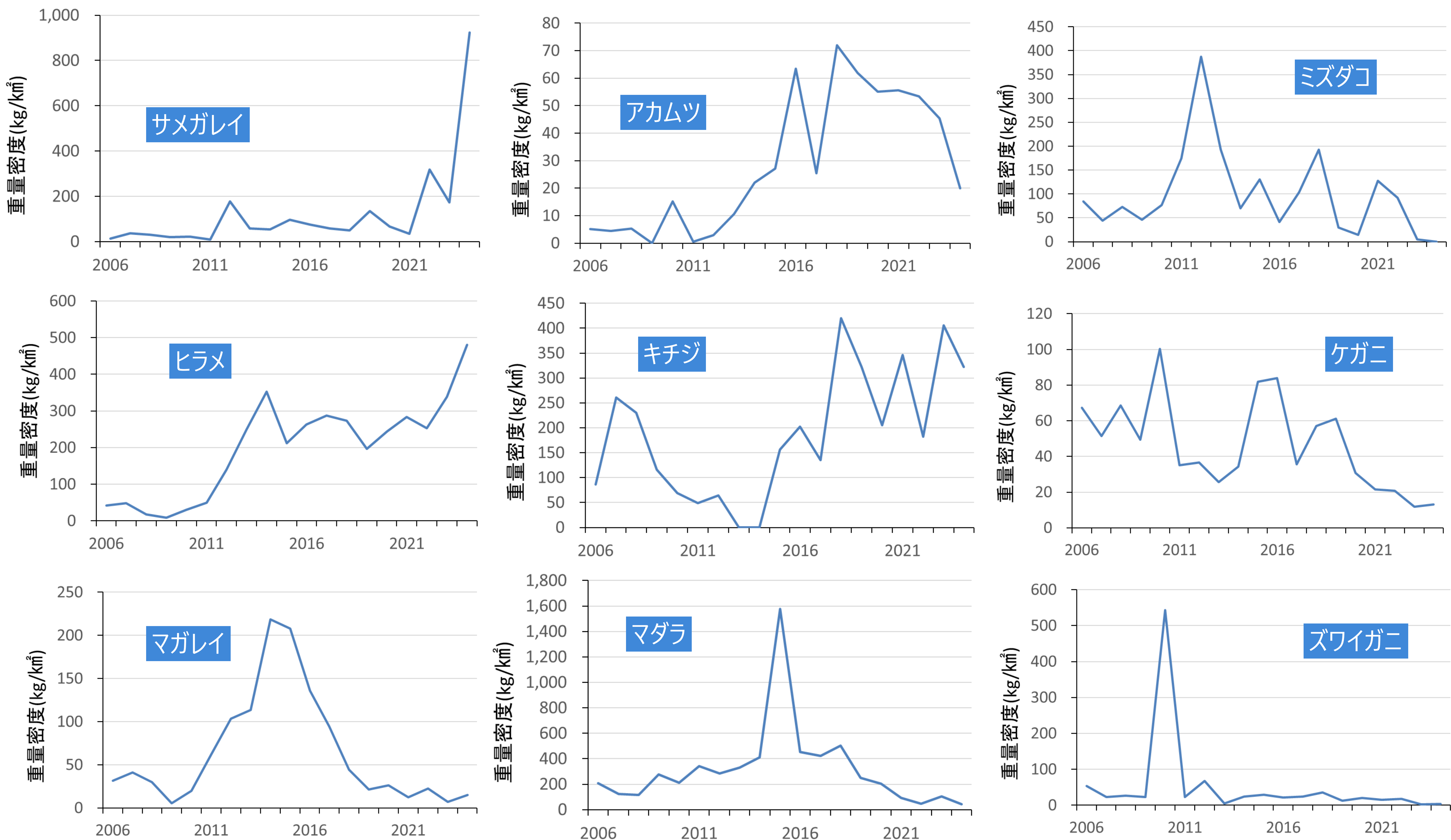


図2 2006～2024年の重量密度変化

- 底魚類の重量密度は震災前と比べ、ミギガレイ、マガレイ、アカガレイ、マダラを除いて主要な種で増加しました。
- 頭足類、甲殻類の重量密度は震災前と比べ、ヤリイカを除いて主要な種全てで減少していました。
- サメガレイ、ヒラメの重量密度は年々増加傾向となっています。マガレイとマダラは震災後にいったん増加しましたが、2015年をピークに減少し、震災前と同程度となりました。近年はアカムツやキチジなどが増加しています。
- ミズダコ、ケガニ、ズワイガニについては減少傾向で、近年不漁が続いています。

まとめ

沿岸漁業の水揚量は年々増加していますが、資源の状況に合わせて利用する必要があります。